

3・30三里塚 大結集のために(その3)

新たな二期攻撃粉碎へ 闘う反対同盟

反対同盟 石井武氏を現地に訪ねて 実行役員

本紙「三六二号」「三七〇号」で既報の通り、三里塚はいま、新たな二期攻撃との激烈な対決に入った。「農業振興策」に名を借りた「公団用地貸付けと成田用水」、千代田農協買収・移転工作という反対同盟への分断・懐柔・解体を狙った一連の攻撃に対し、反対同盟は全力決起し闘っている。反対同盟はこうした二期工事への決定的な攻撃を粉碎すべく、3・30現地大集会への結集を呼びかけている。3月14日「日刊」編集委員会は、石井武反対同盟実行役員のお宅を訪問し、この間の三里塚現地情勢と3・30へむけた決意をお伺いした。

△編集委員会▽

動労千葉は、3・30現地集会へ大動員をかちとるべく職場でとりくんでいます。今日は、現地の状況についておきかせ願いたいと思っております。

「農振策」をもって反対同盟の分断・壊柔をはからんとする攻撃に対し「用地内の決意」が発せられそれによつて、反対同盟・各部落で闘いの決意があがっているときですがその辺を含めた現状から、おききしたいのですが。

△石井武実行役員▽

3月8日の芝山農協運営委員会では、参加した運営委員17名中16名が移転に反対し決議した。これをうけて4月4日に組合員大会を開く予定だ。4月4日は必ず勝利するネ。

なぜかといえば、農協移転にのつて自分の利益をえようとするものは1人だけであり、あとの人は仮に農協移転、二期工事ができたとしたら、騒音下の生活をしなければならぬし、これを考えれば組合員大会で賛成する人は、1人もいないはずだ。結局、公団の狙いは拠点としてある農協を移転させて同盟をぐらつかせることだからね。

読売新聞が「反対同盟分断・ピンチ」などと書いていたが、これも刺激剤であつて、「雨降って地固まる」ということわざがあるが、問題があつてこそ組織は強くなる。15年間反対同盟は、こうして強くなったからね。

△編集委員会▽

3・30現地集会への決意なり要望をおきかせください。

△石井武実行役員▽

われわれが強調したいことは、法的には、昨年12月16日以降は強制取用もできないわけよ、それでも法をまげてでも二期工事をやろうとしている。これは、政府公団の最後のあがきだね。法的にはわれわれが勝っている。本当の法治国家だというならば、二期工事計画はやめるべきだ。ところが政府・公団は法を自分らの有利なように悪用して



3.30 全力で三里塚現地集会へ 10時 成田運転区

いる。この法を悪用できないだけの状況をつくりだす大衆の決起が3・30にかかっている。このことを多くの皆んなに知ってもらいたい。

やはりいま、二期工事として道路や、部分的に滑走路をつくるのかとして既成事実化して最後に残ったじゃまになるものを強制取用するということを狙っている訳だから、ここで一つの工事も手をつけたら、大きな問題が起る。またオープンしている空港そのものも窮地に追い込まれるという圧力をかけられるだけの大衆が集まるということが最大の意義だと思ふんだよね。

それと、全国に三里塚と連帯する労働組合を作つてほしいね。動労千葉が、見本というか、道しるべとなつて、これに見習つた労働組合をつくつていけば、三里塚はかならず、勝利すると俺は思う。

△編集委員会▽

われわれもいま石井さんがいわれた意義を深くかみしめて、3・30に決起し、共に闘います。本日は大変ありがとうございました。

日刊 動労千葉

80.3.19
No. 380

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八一九(公衆電話三二二七二〇七)